

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	1949年以前に設立された中国の大学キャンパスにおける景観形成手法とその変遷
Title(English)	Landscape and its Transformation of University Campuses Established before 1949 in China
著者(和文)	平 輝
Author(English)	Hui Ping
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第10645号, 授与年月日:2017年9月20日, 学位の種別:課程博士, 審査員:安田 幸一,奥山 信一,塚本 由晴,山崎 鯛介,村田 涼
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第10645号, Conferred date:2017/9/20, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

(博士課程)

論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第	号	学位申請者氏名	平輝 (PING Hui)		
論文審査 審査員		氏名	職名		氏名	職名
	主査	安田幸一	教授	審査員	村田涼	准教授
	審査員	奥山信一	教授			
		塚本由晴	教授			
山崎鯛介		准教授				

論文審査の要旨 (2000 字程度)

本論文は、「1949 年以前に設立された中国の大学キャンパスにおける景観形成手法とその変遷」と題し、以下の 6 章から構成されている。

第 1 章「序」では、研究の背景と意義、研究の資料と方法、研究対象の概要、既往の研究、論文の構成について述べた上で、19 世紀末に近代化が始まった中国での大学キャンパスの発足と、その後中国特有の文化・社会背景の影響によって断続的に発展してきた経緯を概説し、長期にわたり形成されてきた中国の大学キャンパスにおいては、各大学の歴史や空間の特性を活かした個性的・魅力的なキャンパス空間を構築することが課題であり、その課題を歴史が重層された公共空間の在り方と捉えて、建築デザイン論から問い直すことの重要性を述べ、中華人民共和国の建国年である 1949 年以前に設立され現在までキャンパスとして使われている 54 のキャンパスにおける代表的な景観を対象に、4 つの発展段階を設定している。さらにキャンパスの景観形成を捉えるために、「キャンパスオープンスケープ(COS)」という外部空間のまとまりを定義し、その性格を自然・都市的環境要素とオープンスペースの平面形状や配置との関係、外構要素と人の行動や建築の配置との関係、周縁建築群同士の関係といった各 COS における構成要素同士の関係を捉えることでキャンパスの景観形成手法とその変遷の特徴を明らかにするという目的を述べている。

第 2 章で「オープンスペースの変遷と環境要素の関係による景観形成手法」では、COS の計画的な特徴を環境要素との関係から捉え、敷地内外の起伏や、河川・池、都市道路などの自然・都市的環境要素の集合を敷地環境と呼び、段階毎のオープンスペースの形態の変化と取り入れる環境要素との関係を検討している。その結果、オープンスペースは不連続な展開により「整形のみ・単数」から「不整形あり・複数」に変化し、都市化の影響により自然と都市の環境要素が複合されオープンスペースに取り入れられた特徴を明らかにしている。

第 3 章「外構要素と配置形式による景観形成手法」では、COS の平面的な特徴を外構要素と利用者の行動や建築との関係から捉え、現状のキャンパスを対象に、COS における様々な外構要素を人・車の様々な行動の関連による活動の場の形成、周縁建物・校門との関係による象徴性の形成について検討している。その結果、動的な広場や運動場よりも静的な庭園の設置が多く、外構要素と主建築や校門と対称・非対称な配置が複合され、外構要素の種類と配置によって性格が異なる場所がキャンパス内に共存している特徴を明らかにしている。

第 4 章「周縁建築群の立面と配列による景観形成手法」では、COS の立面的な特徴を建物同士の関係から捉え、現状のキャンパスを対象に、オープンスペースを取り囲む建築群の立面における様式と外壁及び屋根の色の相似関係、立面規模の比較関係、配列による位置関係について検討している。その結果、初期に建設された建物の様式や色がその後建てられた建物に継承されたことが多く、異なる時代の主建築が形成する複数の軸により建築群が多中心に統合されている特徴を明らかにしている。

第 5 章「景観形成手法とその変遷」では、2～4 章でそれぞれの側面から検討したキャンパスの景観形成の特徴を統合し、キャンパス景観の構成要素と構成形式の組合せによる景観形成の全体的な特徴と、中国特有の文化・社会を背景とした変遷の特徴をキャンパスの発展経緯を踏まえて考察している。その結果、中国人が設立したキャンパスは自然的な環境に立地し、大規模に発展した敷地で軸関係が積極的に守られているのに対し、外国人が設立したキャンパスは都市的な環境に立地し、規模が限られた敷地で軸関係の構築よりも密集して建設された傾向を明らかにしている。

第 6 章「結論」では、2 章から 5 章までに得られた結果をまとめ、本論文で得られた知見を総括している。

以上を要するに、本論文は、中国の大学キャンパスの景観を「キャンパスオープンスケープ(COS)」のまとまりとして検討することで、環境要素、外構要素、建築要素など、様々な景観要素同士の関係によって、その複合的な景観形成手法とその変遷を明らかにしている。この結果は、キャンパスの敷地が有する資源の活用や、機能性と象徴性による公共空間の在り方、更新され続ける時代性と伝統との関係による空間のハイブリッド性といった多角的な視点を提案しており、大学キャンパスにとどまらず、建築と公共空間の関係を取り結ぶ景観設計手法を新たな建築デザイン理論の一翼として普遍化しうものとして評価できる。従って、本論文の成果は、建築学および工学に貢献することが大きく、博士(工学)の学位論文として十分に価値のあるものと認められる。

注意:「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。